

●一眼レフのファインダーについて

今回は、一眼レフカメラのファインダーについて書かせて頂きます。というのも、カタログに書かれているニコンD3のファインダー倍率が0.7倍なのに、D300は0.94倍で「D300のファインダーの方が、性能がいいのか？」と複数の方に質問を受けました。そこで、この数字の謎と「一眼レフの命」とでも言うべきファインダーについて、あれこれ書かせて頂きます。

まず、ファインダー倍率ですが、使用するレンズの焦点距離により倍率も変わります。そこで、カタログなどに表記される時は、標準レンズである50mmレンズを装着した時の倍率で表されます。ただ、何故か画面サイズの小さいAPSサイズのデジタル一眼レフでも50mmレンズを装着した時の倍率が用いられます。ご存知のようにAPSサイズでは焦点距離が1.5倍相当になりますので、これでは75mmレンズを装着した倍率になってしまいます。というわけで、同じ標準レンズ相当で比較する場合、逆に1.5で割る計算になり、D300の場合は $0.94 \div 1.5$ で実際は約0.63倍になるということです。ちなみに、ニコンFやF2、F3は倍率が0.8倍あり、ニコマートやFM、FE系は0.86倍でした。「昔の一眼レフの方が、ファインダーが見やすい」と言われるゆえんです。中級機よりフラッグシップであるF一桁系の方が、倍率が低いのは視野率100%のためですが、F3-HP（ハイアイポイント）以降、F4もF5も0.75倍になります。これは、眼鏡をかけていても画面の隅々まで見渡せるように設計されるようになったからです。視野率100%は48年前に発売されたニコンF以来、ニコンではフラッグシップの当たり前

になっていますが、100%にするには高度な技術を必要とし、価格の面などで中級機以下には採用できないそうです。

さて、オートフォーカスの登場で普及機と呼ばれるクラスではファインダーが重要視されなくなってしまいました。このクラスのカメラを使用する方は、手動でのピント合わせをしないと考え、それよりも重量を軽くするため「一眼レフの命」の源であるガラスプリズムを廃し、貼り合わせたミラーを採用、これが、見づらい粗悪なファインダーの要因となります。また、フォーカスエリアをファインダー内に表示させるため、ファインダースクリーンに液晶を挟むようになり、これもまた、ピントの山がつかみにくい一因のようです。オートフォーカス全盛とはいえ、オートフォーカスではピントが合わないシーンもあり、フォーカスポイントも画面全体にあるわけではないので、手動でのピント合わせはとても重要です。さらに、ズームレンズが主流となった今では、ファインダーの明るさも大きな要素ですが、ファインダーを明るくするとピントの山がつかみにくくなるようで、単純に明るくするだけなら容易なのですが、同時にピントも合わせやすくするのは難しいそうです。数年前、某メーカーが新製品を出した時、技術者が「ファインダーは他社より勝っている」と胸を張ったそうですが、技術者がこだわるファインダーは、一眼レフでライブビュー撮影ができるようになって「一眼レフの命」であることは、決して大げさではないと思います。

●こちらもガバイ！オリンパスE-3

ニコンD300と同じ日にオリンパスからもフラッグシップ機が発売されました。オリンパスが推奨しているデジタルの規格、フォーサーズはAPSサイズより少し小さいセンサーですが、あえて、3:2の画面比率にこだわらず、4:3の比率にしたことでレンズの性能を十分に生かすことができ、APSサイズと遜色はありません。さて、E-3ですが、画面サイズが小さいとファインダーの性能は不利になるのですが、視野率100%を確保しながら倍率1.15倍を実現。35mmフルサイズに換算すると約0.58倍相当ですが、下位機種のエ-410/510やパナソニック、ライカのフォーサーズ機が0.92(0.46)倍であること考えれば、いかにすごいかわると思います。何より、数字以上に見え具合の良いファインダーに仕上がっているそうです。新開発のオート

フォーカスは11点で全点ツインクロスセンサーを採用、高速（合焦速度、ピントが合う速さ）、高精度の上に測距輝度（ピントが合う明るさ）、-2EV（ニコンD3/D300は-1EV）で暗さにも強いと評判です。液晶モニターは2.5型23万画素ですが、自由自在に動くフリーアングルでライブビュー機能をいかんなく発揮することができます。その他にも画質はもちろんのこと、ボディ内手ブレ補正も搭載され、全てにおいてブラッシュアップ。前モデルE-1から4年を経てオリンパス渾身のデジタルであり、ファン、垂涎の1台であることは間違いないようです。あえて、難点をあげるとしたら、防塵・坊滴、高剛性に仕上げたため、重量がE-1の660gから810gになってしまったことぐらいでしょうか。（D300:825g、キャノン5D:810g）

●シグマ「DP1」の開発の遅れを謝罪！

ほぼAPSサイズでフォビオン3層センサーを搭載したコンパクトデジカメですが、シグマから正式に開発の遅れと謝罪が発表されました。β機レベルでの画質がコンデジ並みなら及第点だそうですが、同社の考える画質（同社のデジタルSD14と同等）にならず、一部の設計をやり直したそうです。それでもまだ、発売日を確約できるまでに至っていないそうです。やはり、コンパクトのボディにサイズの大きいセンサーを搭載するのは、レンズ設計を含め、かなり困難なようです。それでも、チャレンジしている同社の奮闘を期待したいと思います。